

アルコール使用障害（アルコール依存症）に関する患者さんの情報の研究利用についてのお知らせ

この度国立病院機構東京医療センターメンタルケア科では、「総合病院における、アルコール関連問題を有する患者に対する短期入院型、多職種集学的リハビリテーション・プログラムは、通常診療と比較して再入院または死亡までの期間を延長し得るか?：時変曝露コホート研究」を行うことになりました。

この研究の目的は、飲酒の健康への影響がみられる患者さんの再入院や生存状況の経過を調べて、外来でのケアに比較して、短期入院型、多職種集学的リハビリテーション・プログラム(TAPPY :Tokyo Medical Center Alcohol Program with Physicians)がどのような影響を及ぼすかを明らかにすることです。

この研究のため、2017年11月1日より2024年12月31日までに治療した方の診療録の調査を行います。対象となるのは飲酒の健康への影響がみられる患者さんで、TAPPYに参加した方、または、TAPPYに参加せず、いずれかの診療科の外来治療を行った方で、調査項目は個人情報を含まない医学的な情報（再入院や生存状況の経過、年齢、性別など）のみです。患者さんのお名前、住所などのプライバシーに関する情報が外部に漏れることは一切ありませんのでご安心下さい。

調査したデータは、本研究の責任者のもとで厳重に管理されます。今回の研究で得られた結果に関しては、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告されることがあります。

ご自身のデータを研究に利用することを承諾されない方は下記にご連絡下さい。その場合も、診療上何ら不利な扱いを受けることはありません。

この件に関しましてご質問等がございましたらご遠慮なくお尋ね下さい。

2026年9月

東京医療センター メンタルケア科

研究責任者 杉原 正子

科長 古野 毅彦

連絡先 03-3411-0111(代表)